

無量寿

2018
春

CONTENTS

[P1] 永代経案内・講師紹介 [P2-5] 平成29年報恩講法話録
[P6] 活動報告「はなまつり」他・編集後記

【発行】雲夢山寿命寺

大津市雄琴 3-19-36 TEL/FAX 077-572-5125 <https://jumyouji.net/>

平成
30年

永代経法要

5/13日

【昼】14:00~16:00

【夜】19:30~21:30

【講師】**九條孝義 師** (本願寺派布教使/湖南省 報恩寺 前住職)

今回は湖南省夏見からご講師をお迎えします。学校の先生でしたので、お話の分かり易さには定評があります。報恩講の参り合いのお寺にもよく出られているため、お話を聞いたことがある方もあるでしょう。因みに去年の龍光寺さんの報恩講でお話を聞かれた、寿命寺の某仏婦さんの感想は「ええ話やったから、ちっとも寝られへんかったわ」



5月13日、寿命寺では恒例の永代経法要をお勤めします。永代経とは永代に渡ってお経が読み継がれていくことを願って勤める法要です。

浄土真宗において、お経とは浄土三部経、即ち「仏説無量寿経」「仏説観無量寿経」「仏説阿弥陀経」のことですが、これらは今から二千年以上前にインドで成立したものです。それを今勤めるということは、お経が遙か時空を超えて私の元まで届けられたということであり、それを今、私が受け取ったということに他なりません。

「届く」と言えば、私たちは今日注文したものが明日届くのが当たり前の中を生きています。でも昨年、その仕組みを支える物流業界の疲弊がニュースになりました。物流・宅配に従事している人たちの長時間労働が慢性化しているというのです。原因の一つに挙げられたのが受取人の留守による再配達増加でした。言われてみれば私にも当たる節がありました。ワンクリックで荷物が届く手軽さ故、昨日自分で注文し

た品物のことを忘れて配達指定時刻に出かけていることが幾度かあったのです。

しかし考えてみれば一晩で遠方から荷物が届くというのは決して手軽なことではありません。一日中倉庫で仕分けをしたり、夜通しトラックで高速道路を走ったり、重い荷物を抱えて路地を駆け巡ったり・・・多くの人々のご苦勞があつて初めてこの仕組みが成立します。またインターネットがこれほど普及するまでにどれほどの投資がなされたでしょう。あるいは国中を巡る道路は誰が作り、維持しているのでしょうか。ニュースを機に有難いことを当たり前のことと貪っていた私の姿に気付かされました。

話をお経に戻して、それがどうやって私まで届けられたか考えてみれば、そこにも無数のご縁があつたことに気づかされます。ヒマラヤの雪山を超え、中国の砂漠を超え、日本海の荒波を超え、お経は私たちの国にもたらされました。でも単に書物が物理的に届けられただけなら、二千年の時を超えて今日まで残ることはなかつたでしょう。読んで味わい、優しく内容を説き開いてくださった方々があります。そこに七高僧や親鸞聖人、蓮如上人の姿が見えます。そしてその話を聞いて、これは自分のための大切な教えだと喜び、後世に残さなければと環境を整えてくださった方々があります。その中にきっと皆様のご先祖様の姿があるでしょう。こうした無数の人々の願いによって届けられたのが、今私たちが勤めるお経なのです。

どうか心を留守にして大切な荷物を受け取り損ねないよう、しっかりとお勤めさせていただきます。たくさんのお参り、心よりお待ちしております。



「会えてよかった」

高務哲量 師 (福井市千福寺住職)



昨年の十月二十八、二十九日にお勤めした報恩講。ご講師の高務先生には二日間四座のご法話を頂きましたが、その「千秋楽」のお話の要約をお届けします。先輩僧侶の思い出からお浄土を頂いている有り難さをお聞かせくださいました。

会えてよかった

ようこそそのお参りです。平成二十九年の寿命寺様の報恩講、昨昼、昨夜、そして今朝とお取次させて頂いて、このお座でいよいよ最後です。芝居や相撲で言えば千秋楽ですね。でもあれは元々お寺の言葉なんです。数日に渡る法要の最後のお勤めに演奏される雅楽の曲名が千秋楽で、それが転じて芝居や相撲の最終日のことを言うようになったんです。

さて、雑学の時間はここまで。このお座では「会えてよかった」という言葉をテーマにお話します。最初にみんなと一緒に口に出してみましよう。ご協力をお願いします。いきますよ。さんは

い！(一同)会えてよかった」

ありがとうございます。どうですか？あたたかい言葉でしょ。これは私が親しくさせて頂いていた先輩の僧侶がよく口にしていた言葉なんです。富山県は宇奈月温泉近くの善巧寺(ぜんぎょうじ)というお寺の住職だった方で、雪山隆弘(ゆきやまたかひろ)さんといいます。既に平成二年九月十七日に五十歳の若さでご往生されています。

雪山先輩のご生涯

雪山先輩は元々大阪のお寺の次男坊でした。小さい頃から演劇が好きで早稲田大学の演劇部を経て劇団四季

の研究生にまでなれましたが、プロにはならず、産経新聞に就職しました。それで記者として活躍されたんですが、富山のお寺の娘さんとの見合い話が来て、そこで一目惚れされて結婚・入寺されました。お相手は玲子(れいこ)さん。北日本放送のアナウンサーをされていた聡明で素敵な女性です。



発想力も行動

力もある二人が夫婦になったものですから、お寺を活性化させるために次々と新しい活動を立ち上げていかれました。まずは子供達を集めて日曜学校を始め、それを土台に「雪ん子」という子供の劇団を立ち上げられました。次に親の代を巻き込んで「日本一美味しいお菓子を食べる会」「日本一美味しいお酒を飲む会」を立ち上げられました。早い話が一般のお寺でいう婦人会や壮年会なんです。ユニークな発想とやり方でどんどん人が集まって、とても賑やかなお寺になりました。

一美味いお酒を飲む会」を立ち上げられました。早い話が一般のお寺でいう婦人会や壮年会なんです。ユニークな発想とやり方でどんどん人が集まって、とても賑やかなお寺になりました。

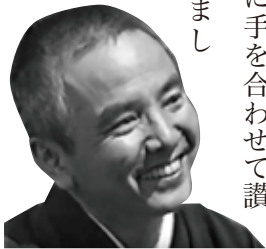
ところが・・・です。四十七歳の冬、先輩はお参りの途中、雪道で転んで尻餅をつきました。それをきっかけに下血が始まりました。大病院での検査の結果、大腸ガンと診断されます。しかもすでにかなり進行していました。そのことを医者さんから最初に告げられたのは玲子さんでした。彼女はどうかやつてご主人の病室まで戻ったのか記憶がないそうです。でもなんとか病室に入ると先輩に開口一番「癌だったんだらう？」と言われたそうです。「私は結婚してからなんでもあなたに相談してきました。でも、今度はそれがあなた自身のことだから・・・」そこまで言う先輩は「分かった。辛かったらう。やれることはやろう」。そう仰ったそうです。

それから東京築地の国立がんセンターに入院し、手術しました。人工肛門になられたんですが、その時も先輩はただでは転ばないですね。退院前にお医者さんや看護師さんを集めて

「癌患者として見舞われる立場から」と言う講演会を開いておられる。すごいバイタリティーを持った方です。

その後富山のお寺に戻り自宅療養に入られますが、手術にも関わらずやはり癌は進行していました。

ところで雪山夫婦には三人のお子さんがありました。長男の俊隆(としたか)君は、中学の頃にはお父さんに反抗して全く口を利かない時期もあつたそうです。でもお父さんが癌になつて残された時間が少ないと知り、自分が何ができるか考えました。その結果彼は、お父さんが生きていた間に自分がこのお寺を継ぐと言おうと決心し、高校二年の夏休み、京都で得度して僧侶になりました。ツルツル頭になつて帰ってきた俊隆君を先輩は境内で迎え、そして本堂に連れ添つて入り、一緒に御本尊に手を合わせて讃仏偈を称えられました。嬉しかったでしょうね。



高校二年生の喪主挨拶

それから約一ヶ月後の九月十七日、隆弘さんは往生されました。私もお葬式にお参りしましたが、本当に沢山の参列でした。最後に喪主として俊隆君が挨拶をしました。

「今日は父の葬儀に遠近各地からご参列いただき、ありがとうございます。父は最期に『お前たちに会えてよかつた』と言ってくれました」と。実はこの二週間前に先輩の実父が亡くなつていました。だから「父はきつと今頃、先だつた大阪のお祖父さんと浄土での再会を喜んでいることでしょう」と続きます。

そして「残された私たちも、いずれこの人生を終えていかなければならぬ日が来ます。でも父があんな笑顔でまた『お前たちに会えてよかつた』と言ってくれるであろうことを思えば、もう何も言うことはありません。今度父に会つた時、父が喜んでくれるような人生を歩んでいきたいと思えます。今日があります」と。涙な

がらに語ってくれました。

「会えてよかつた」誕生秘話

「会えてよかつた」。実はこの言葉には歴史がありました。俊隆君が四歳頃のことです。家族みんなの夕食の時、俊隆君が聞いたそうです。「このおうちで一番最初に生まれた人だあれ?」。

数字を覚えて何でも順番を言いたがる年頃だったので、「当ててごらん」と言うみんなの顔を見回して「おじいちゃまかな?」。ピンポンと答えると「じゃあ次は?」。付き合つて家族みんなの順番を言う「ふーん」と言うので、納得したと思つて箸を持つとまた「このうちで、一番最初に生まれた人だあれ?」と来る。

同じ問答が何巡かして、また来るかと思つた瞬間、俊隆くんがみんなの顔を見回して、今度はこう言つたそうです。「みんな、生まれたんだねえ。すると玲子さんが「そうよ、みんな生まれきたおかげで会えたのよ。会えてよかつたね!」と返したそうです。

このやり取りを見ていて先輩は大変感動したそうです。家族揃つてご飯を食べる。当たり前のことと思つていただけどそうじゃない。会えてよかつた。本当にそうだと。

それからこの言葉が雪山家の合言葉になつて、何かと言うとこの言葉が交わすようになりました。なんでも夫婦喧嘩の時にもこの言葉を言い合つたそうです。一通り言いたいことを言い合つた後、「でも、会えてよかつたな!」と言うと「そうね!会えたおかげで喧嘩もできるんだものね!」となつて、それで喧嘩が収束するんだそうです。なかなかできることじゃないですね。

でも先輩はとにかくいつでも誰にでも「会えてよかつた」と声をかけていました。どういふお心からそうしていたのか、休憩の後もう少し考えて見たいと思います。

「会えてよかつた」に込められた心

さて、いよいよあと三十分程になり

ました。ここでもう一回みんなで言ってみましょう。さん、はい！(一同)会えてよかった。ありがとうございませす。いつでも誰でも言える簡単な言葉ですね。でも、誰に対してでも言えるか？と問われたらどうでしょうか。「できることなら会わなければよかった」という人が一人や二人、皆さんもあるのじゃないですか？

仏教の基本的な見方から言えば、嫌いな人というのが存在するのではなく、ただ私の都合に合わない人を嫌いと言っているに過ぎないということになります。その証拠に嫌なやつだと思っていたけど、付き合ってみれば案外いい奴だったということがあるでしょう？逆もありますね。「いい人と思っていたのにあんなこと言うなんて」と。つまりいい人、悪い人がいるんじゃないなくて、「自分の都合にとつて」いい人、悪い人がいるだけなんです。でもそうは言われても、やっぱり嫌な奴は嫌な奴ですよ。そういう人には会えてよかったとはなかなか言えない。

い。ところが雪山先輩は都合の合わない人にも「会えてよかった」と声をかけていました。どうしてそんなことができたのでしょうか。

人身受け難し、仏法聞き難し



私の友人に産婦人科の医者がいますが、彼が以前こんな話を聞かせてくれました。「お父さんとお母さんから一

人の子供が生まれてくる確率は数億分の一なんて言われるけれど、あれは男性の一回の射精に含まれる精子の数の話だよ。お父さんとお母さんの体の中で一生涯に作られる精子と卵子の数まで勘定したら、その分母の数は少なく見積もっても数兆にまで跳ね上がる。だから、他でもないこの私というたった一人の人間が生まれてきたのは天文学的確率の出来事なんだよ」と。実は仏教ではその門をくぐる最初の一步にこのことを言うのです。お釈

迦様のお弟子になる時に唱える三帰依文の冒頭に「人身受け難し、今すでに受く」とあります。人として生まれることは稀なことだけど、あなたは今既に人として生まれている。それはものすごいことなんだよということですよ。仏道の最初の一步はその感動から始まるのです。

でもまだ終わりじゃありません。続いて「仏法聞き難し、いますでに聞く」。人間に生まれる事も稀だけど、さらにその上仏法に出会うということとはもつと稀なことだと言うのです。

やはり先輩も仏法を聞く中で人としてこの世に生を受けたことに感動されたのでしょうか。そしてさらに仏法との出会いを人とのそれに重ね合わせ、有り難いことと頂かれていたのだと思います。「俺はあんなのことは本当に好かん。できれば会いたくなくなつた。でも、俺がこうして人として命を頂いたことは類稀なこと。あんたもそうやったな。しかもたまたま同じ時代に生まれ同じ場所で同じ空気を吸つ

ている。うん、会えてよかったな」。先輩が苦手な相手にでも「会えてよかった」と言っていたのは、こういう心持ちからのことだったのでしょうか。

だとすれば、同じ家族としていることの有り難さはどれだけのことでしようか。生んでやったくらいに思う親もいるかも知れない。でも先輩は子どもたちに対して、我が子として生まれてきてくれて本当にありがとうと思っていたに違いない。だからこそ、最後の最後に「お前たちに会えてよかった」と言えたんでしょう。

「また会おうな」

亡くなる一週間前、容体が急変したと聞いて、福井から黒部市民病院まで車を飛ばしました。面会謝絶を覚悟してましたが、たまたま今落ち着いているとのことで許可が出ました。

病室に入る前、従前から先輩にかざっていた「お見舞の心得」を思い出しました。立ったまま話をしないで座って目線の高さを合わすこと。それ



からお気の毒なん
て顔しないで、猫が
子供生んだとか、

チューリップが咲いたとか、なんでもい
いから笑顔になる話を持つてくるこ
と。それに従って極力明るい顔をして
意を決して「こんにちは！」と病室の
ドアを開けました。

次の瞬間、準備していた話題も忘れ
て私は入り口に棒立ちになりました。
落ち込んだ目、瘦けた頬、酸素マスク。
やつれきった先輩の姿に言葉を失った
のです。そんな私を見て逆に先輩が
「ま、こんなもんじゃ」と声をかけてく
れました。それでようやく落ち着いて
座って、ほんのしばらくですが言葉を
交わすことができました。

最後に「今日、先輩にお会いできて
嬉しかったです」と声をかけて病室を
出ようとする、先輩はマスクを外し
てこう言いました。「また会おうな」。
状況的に、それが退院してまた会おう
と言っているのではないのは明らかで
す。俺が先に参るからそこでまた会おう。

う。そういう意味です。私は「ありがと
うございます！また会わせて頂きま
す！」と言って病室を後にしました。
それが今生最後の出会いでした。

あたたかさで厳しさと

一週間後、葬儀に参列させていただ
きました。先程紹介したように、当時
まだ高校二年生だった長男の俊隆君
が喪主として涙をこらえて挨拶をし
てくれました。私も込み上げるものを
感じましたが、特に心動かされたのは
最後の「今度父に会った時、父が喜ん
でくれるような人生を歩んでいきたく
い」という言葉でした。

今「人生死んだらお終い」と言って
憚らない人も多い世の中です。でもそ
んな考えから導き出されるのは、
「だったら生きてるうちに楽しまな
きゃ損」と自己中心的に好き勝に振
る舞う、他を顧みない生き方しかない
のではないのでしょうか。

でも昔の人はよく言ってくださった
でしょう？「ご先祖様が見てるぞ」

て。人の目や監視カメラはごまかせて
も、いつも私を大切に見守る眼差しが
ある。そのことを知らされれば、その
方を悲しませるようなことは慎もう
とする生き方が、自ずと芽生えてくる
んじゃないでしょうか。だから、また会
う世界があるということとは、あたたか
くもあり、同時にこの上なく厳しいこ
ともある。そのことを俊隆君の涙な
がらの挨拶に思わされたのです。

私も皆さんも、そう遠からずお浄土
に参らせて頂くでしょう。そこは親鸞
聖人や、懐かしくて大切な人が待つて
いてくれる場所です。そう聞かせても
らったなら、残された人生をどう歩み
ますか？「我が名を称えて精一杯生き
ておくれ」という如来の願いを聞かせ
て頂く私たちですから、やつぱりお念
仏を称える毎日を送らせて頂きませ
しょうよ。そうしてお浄土に参らせて
頂いたなら、きつと懐かしい方が「あの
時しんどかったよね。誘惑もあつたけ
ど、自暴自棄にならずに、よう我慢し
たね。ちゃんと見てたから。嬉しかった

よ」と言つて喜んでくださることでは
う。

どうか皆さん、このことをお子さん
やお孫さんにも伝えてください。お浄
土から仏様が見てるぞ、ご先祖様がみ
てるぞつて。煙たがられても言つてく
ださい。また会える世界があることの
あたたかさ、厳しき、そして有り難さ
を伝えていきましょう。

さあ、最後にみんなでもう一度。さ
ん、はい！「会えてよかった」。ありがと
うございました。



「はなまつり」が開催されました

4月8日(日)、花まつりを開催しました。当日は冬のような寒さでしたが、沢山の子も達が来てくれました。

子ども達はまず向拝に設置された花御堂でおしゃかさまの像に甘茶をかけ、それから本堂で「讚仏偈」をお勤めしました。続いて婦人会の皆様による、お釈迦様の生涯を紹介する絵本の読み聞かせ。ページを開くと絵が立ち上がるようになっていて、子ども達は場面が変わるごとに食い入るように見ていました。その後の住職の法話では、お釈迦様が説かれた「縁起」の教えについて子ども達にも分かるように易しくお話したつもりですが…やはりちょっと難しかったかもしれません。精進します。



それから今度は外で婦人会の方が準備してくださった白象のパズルで遊びました。境内のあちこちに隠されたピースを見つけ、台紙に貼って白象を完成させます。でもみんなすぐに見つけてきて、あっというまに完成してしまいました。最後は大津市仏教会の巡回による「白象」が到着し、記念撮影をして解散となりました。

この行事は今年で三回目ですが、回ごとに賑やかになってきました。ご門徒の皆さんのお声かけに感謝します。またそれ以外にもポスターを見て来てくれたご家族もありました。仏さまを敬う習慣が子ども達に広がるよう、来年も開催したいと思います。婦人会の皆さまはじめ、ご協力くださった皆さまに、心より御礼申し上げます。

恵信尼公750回忌法要に参拝(仏婦)



4月13日、婦人会の「お寺カフェ」の一環として、本山で勤修された親鸞聖人の妻、恵信尼公の750回忌法要に有志4名で参拝しました。

当日は前門様が御出座になり、また女性僧侶2人が本山の法要で初めて、始まりに唱える声明を先導する「散華頭」を務められました。約2千人の門徒や僧侶で唱える「正信偈」は、荘厳な中にもあたたかみを感じさせ、心に残るものとなりました。

遠方地から参拝される方と比べ、この雄琴は京都まで電車で20分と本山へ参拝するには好立地と言えます。機会があれば皆様もぜひ、本山へご参拝ください。

各団体総会開催

門徒、仏壯、仏婦の総会がそれぞれ3/25、3/31、2/17に開催され、各決・予算が承認されました。またそれぞれ新体制が下記(敬称略)の通り決まりました。

【総代】 伊藤庄蔵(責任役員)・古川清二・古川重雄
中川茂治・三上務 ※全員再任

【仏壯】 会長:三上務
副会長:傍島公男
会計:井根口敬一郎

【仏婦】 会長:矢吹淑子
副会長(会計):池見扶佐子

【世話方】 正:三上賢司・池見庄次・井根口敬一郎
副:中川茂治・三上史雄・杉田英夫

加えて門徒総会においては墓地管理規程改定と公文への客殿賃貸事業等について報告がありました。

編集後記

今、米歌手ブルーノ・マーズに夢中です。寿命寺のご門徒さんにはあまり馴染みないかもしれませんが、今年のグラミー賞を八部門独占した世界的スーパースターです。▼東欧系ユダヤ人×プエルトリカンの父とフィリピーナの母の間にハワイで生まれ育つという複雑な出自ながら、ロック、ポップ、ソウルといった王道アメリカ音楽への憧憬を直球に表現する彼の楽曲は、折々「文化の盗用」と揶揄されてきました。でも彼は、影響を受けた過去のスターたちの跡を辿っているだけ、と意に介しません。▼前に生まれんものは後を導き、後に生まれんひとは前を訪え。ブルーノ・マーズの姿勢と音楽に、道綽禪師の言葉を思い出すのは飛躍が過ぎるかもしれませんが、でも、どれだけオリジナリティを強調した作品であっても、過去や他者の影響を受けられないものは存在しません。それだけに、そのことに自覚的なブルーノ・マーズに、仏教に通じるものを感じずにはおれないのです。▼一度聴いてみてください。尻理屈抜きに楽しめますから。(住職)

